

みる つくる がたる

千葉県立美術館報

VOL. 19 NO.1

(通巻68号)

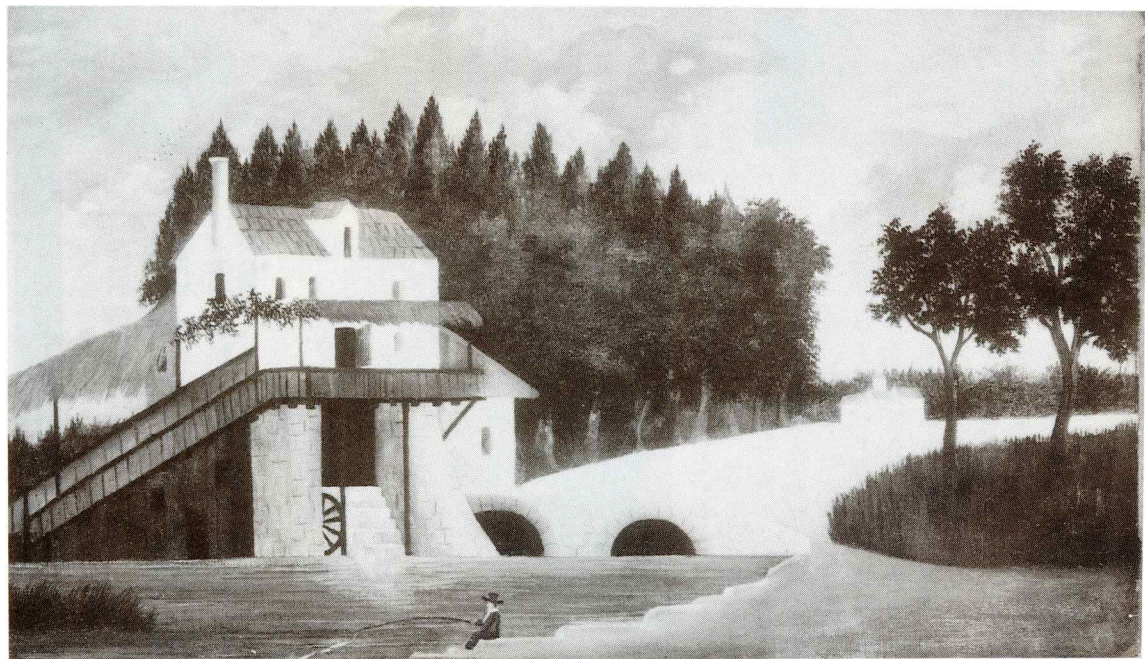
平成4年5月15日発行

編集・発行人 福田 誠

〒260

千葉市中央区中央港1丁目10番1号

☎043-242-8311 (代表)



アンリ・ルソー 「水 車」 1896年

(特別展「アンリ・ルソーとナイーフ美術展」出品)

アンリ・ルソー(一八四〇—一九一八)は、彼の手記のなかで「ただ一つ、自然よりほかに師はない」と書いています。

彼は、好んで風景画を描きました。この作品のように、パリ近郊をモチーフとしたものが多く、その画面の大半にはのどかな空気が漂い、どことなく現実からかけ離れた幻想の世界の中に、小市民が描かれています。

ナイーフ美術の画家たちは、正規な美術教育を受けず、独学で、日常の余暇の楽しみとして絵を描きつづけました。ルソーも同様で、この作品にも見られるように、古典的な遠近法で描くことは出来ませんでした。一見平凡な風景を河岸や藪草を湾曲させて配置することで、遠近を表現するという独自の試みをしています。ルソーは、自らの絵をリアリズムだと述べています。目に見える対象物を装飾を加えずそのまま描いていることから出た言葉ですが、彼のリアリズムには空想の中で見えるものも描き込まれ、詩的なリアリズムとなっています。

この作品は、現存するルソーの作品の初期に位置する貴重なものです。(前川公秀)

県民の日
記念事業

特別展

アンリ・ルソーとナイーフ美術展

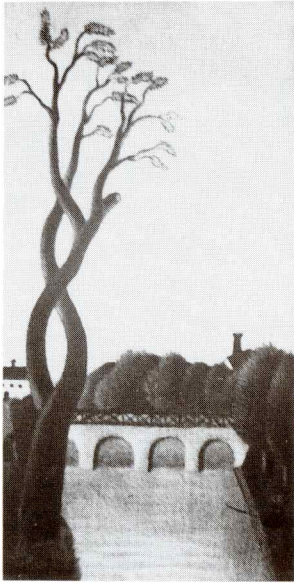
'92.5.16(土)～6.21(日)

ナイーフ美術は、十九世紀の後半から二十世紀の初頭にかけアンリ・ルソーが登場して、写真や幻想が交錯する独創的なスタイルで素朴な心情を表現して以来、近代美術の一領域として注目を浴びるようになってきました。

しかし、それまでもナイーフ美術は存在していました。たとえば、アメリカでは、十八・十九世紀には、エドワード・ヒックスなどが活躍して

いましたが、余り注目されるものがなかっただけです。

ルソーの登場も初めから世間には受け入れられなかった訳ではありませんでした。「ルソーの絵は、六歳の子供が、甘い母親から、食べても無害な絵具箱を貰い、筆の代わりに指を、パレットの代わりに舌を使って描いたなぐり描きに似ている。私は、見物人の顔を観察しながら、これらの傑作の前で一時間過ごした。目に



ルソー「橋」

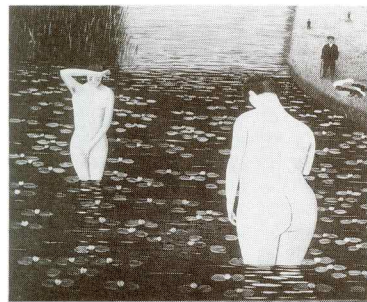


セラフィーヌ「花束」

涙を浮かべて笑っていない者は一人もいなかった。ルソーに幸いあれ。」(岡谷公二訳)と、ルソーへの評価はひどいものでした。しかし、ヴィルヘルム・ウーデとバート・ラヴォワールで「愛情と冗談の混合」した夜会を催したピカソのおかげで、ルソーは次第に社会的な認知を得ることができるようになりました。しかし、今日のような美術史上の重要な作家のひとりになっ

た」とフランス抽象画の創始者ロベール・ドローネーが言うように、近年ではボンボワ、ボーシャーン、ヴィヴァン、セラフィーヌなども高く評価され、今やナイーフ美術はフランスに限らず、ヨーロッパ諸国や中南米まで広がっていることが確認されています。ナイーフ美術の作品は、陰影のない平面的な人や物、遠近法の欠如、明確な輪郭線の描写、あまり上手とは言えな

たのは、死後しばらくしてからのことです。アンリ・ルソーは絵画のこの広汎な革新運動の最初の偉大な画家たちの一人として現われ、この運動は今では、フランスから世界全体に広まっ



ボンボワ「驚いた浴女たち」

い筆法などが共通する特徴として上げられます。このような現実を再現する描写力の欠落は、彼らがアカデミックな美術教育を受けていない為に生じた結果であることは言うまでもありませんが、それ以上に彼らは現実をそのまま描写することに、それ程の価値を見出し出していなかったように思われます。アカデミックな美術教育を受けていないことは、彼らを伝統的な絵画の約束事の拘束から解放し、目に描いたものを単に自らの理解したとおりに、描きたいように表現の本質的な解放は、ある



ポーシャン「聖母被昇天」

意味では現代美術と相通するものがあると言えます。
今回の展覧会では、八十四作家一〇七点の作品を展示します。この中には、残念ながらアメリカは含まれてはいませんが、フランスを中心にユーゴスラヴィア、スペイン、イタリアなどのヨーロッパ諸国やキューバ、ブラジルなど十六国に及んでいます。
彼らは、みな職業画家ではなく、日常の余暇の楽しみとして絵を描いていたことも、ナイーフ美術の画家たちの共通した特徴のふたつ目として上げられます。彼らの仕事は門番であったり、郵便配達人あるいは農夫などいろいろであり、またどの地においても主義主張のある流派（エコー）を形成したり、連携を図

ることなく、個々人として活動しています。にもかかわらず共通的な画風の特徴を持つ絵画が展開されてきたことは、全く不思議なことです。強いてその違いがあるとすれば、それは民族的風土的特性にあると言えるでしょう。これは民族の血と生まれ育った土の違いからの結果かもしれない。
アンドレ・ブルトンにはナイーフ美術の本質を「人類の幼年期のノスタルジア」であると述べています。たとえ民族の血と土が違っても、人類に共通する子供の頃へのノスタルジア（郷愁）が作品の中に展開しているのを、今回の展覧会を通じて、我々はきっと発見できるにちがいありません。（前川公秀）

★開館時間

午前九時～午後四時三〇分
（入場は四時まで）

月曜日休館（六月十五日の「県民の日」は開館し、入場無料）

★観覧料

一般五〇〇円（三〇〇円）、高・大学生三〇〇円（二〇〇円）、小・中学生二〇〇円（七〇円）
（ ）内は二〇名以上の団体料金

❖美術講演会❖

本年度は、各展覧会に併せて美術講演会を5回実施する予定です。ここに、すでに決定している特別展「アンリ・ルソーとナイーフ美術展」の開催期間中における2つの講演会を御案内します。

第1回

日時 5月23日（土）午後2時
演題 「アンリ・ルソーの人と作品」

講師 岡谷公二氏（跡見学園女子大学教授）

第2回

日時 6月13日（土）午後2時
演題 「ナイーフ美術と私」
講師 塩水流 功氏（洋画家）

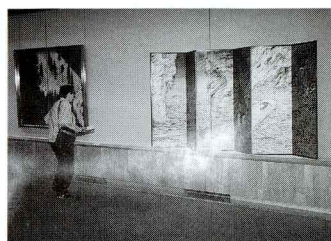
※いずれも会場は本館講堂で参加者数は二〇〇人を対象としています。聴講料は無料です。

常設収蔵作品展

本年度第一期（四月一日～六月二十一日）は前期と後期に分け、「新収蔵作品」（前期%まで）・「房総と近代美術」の二つの区分で企画しました。前期の「新収蔵作品」では、平成三年度に新たに収蔵した印象派の巨匠ルノワールの晩年期の秀作「少女像」をはじめ、明治時代以来日し、本格的な美術教育を行った浅井忠の師フォンタネーの「十月牧場の夕べ」、バルビゾン派の主要な作家の一人であるデュプレの「嵐の前」、森のはずれ、帝展・文展で活躍した本県出身の日本画家石井林響の「桃源」、工芸では近代金工に大きな足跡を残した本県出身の金工家香取秀真・津田信夫の作品、さらに近代陶芸の発展に尽力した宮之原謙の十数点の作品など、充実した内容の展覧となりました。

ら特に鑑賞の要望の高い作品を紹介いたします。また前期に「新収蔵作品」で展覧したルノワールやフォンタネーの作品も追加して紹介いたします。この「房総と近代美術」は会期毎に展示替えを行います。年間を通してほぼ同一の内容で開催します。

第二期（六月二十七日～八月十日）は前期（%・中期（%）・後期（%））の三期に分け、「房総と近代美術」のほかに、前期に本県ゆかりの二人の洋画家に焦点を当てた「石橋武治・原勝郎」や「樹の表現」を開催します。第三期（二月二十七日～三月二十八日）は、「房総と近代美術」のほかに、「浅井忠とその周辺の作家たち」と「版画」の区分を設け、浅井忠をはじめその関連の作家の作品と、版画の作品を紹介いたします。



会場風景

展覧会案内

▽特別展

竹久夢二展

憂いを湛えた夢二式美人で人気の高い竹久夢二（一八八四―一九三四）は、画家のみならず、出版美術、商業デザイン、詩文など幅広く活躍し大正ロマンの寵児で知られています。本県銚子と関係の深い詩「宵待草」は、愛と流浪の夢二の人生を象徴しています。本展は、わが国有数の夢二コレクションである河村コレクションから油彩・水彩等約三百点を展示します。

（会期）九月五日（土）～十月十一日（日）

▽房総の美術家シリーズ②

石井光楓展

石井光楓（一八九二―一九七五）は、大原町出身の洋画家です。最初日本画を石井林響に、さらに日本美術院研究所で洋画を学び、一時院展や帝展に作品を発表。やがて渡米し十六年間留学。昭和十六年帰国後は、春陽会を主舞台に作品を発表。油彩・水彩約七十点を展示します。

（会期）十一月二十一日（土）～十二月二十四日（木）

▽第十六回

千葉県移動美術館

優れた美術作品を、より多くの方々に鑑賞していただくため、県内二会場を巡回して展覧会を開催します。日本画、洋画、彫刻、工芸、書、版画の各分野にわたり、本館の収蔵作品を中心に展示します。

会場と会期は次のとおりです。
大原町文化センター
十一月十二日（木）～二十五日（水）

大栄町コミュニティプラザホール
十一月二十八日（土）～十二月十日（木）

▽第三回
浅井忠記念賞展

本館は開館以来、日本近代洋画の先駆者で、本県出身の洋画家浅井忠の画業を顕彰することに努めてきました。

この間、昭和五十八年に公立美術館としては初の試みである「第一回浅井忠記念賞展」を開催し、平成二年度には第二回展を開催、四〇〇点近い応募作品が寄せられるなど非常な好評を得ることができました。この実績をふまえ、第三回展を開催します。

（会期）平成五年一月十六日（土）～二月二十一日（日）

新収蔵作品紹介

平成三年十月一日から平成四年三月三十一日までに収蔵された作品を紹介します。

購入

〔洋画〕

真野紀太郎作

「バラ」
（水彩一九四四）

伊牟田經正作

「悲劇」
（油彩一九七）

〔工芸〕

津田信夫作

「鳥」
（鍍金一九五）ほか六

宮之原謙作

「鉄芥釉鱗文花瓶」
（陶芸一九六頃）

〔版画〕

深沢幸雄作

「骨疾B」
（銅版一九五）ほか十二点



真野紀太郎 「バラ」

基金取得

〔洋画〕

ジュール・デュブレ作

「森のはずれ」
（油彩一八〇年代）

「嵐の前」
（油彩）

オーギュスト・ルノワール作

「少女像」
（油彩一九六）

時田幸彦作

「舞妓図」
（油彩一九七）

〔彫刻〕

工藤健作

「愁いのマンドーラ」
（ブロンズ一九二）

零駒無蔵作

「集う人々の列に…」
（石一九二）

線引道郎作

「詩人―生を見つめて」
（コルテン鋼一九二）

〔工芸〕

宮之原謙作

「釉嵌十字星結晶花挿」
（陶芸一九三）ほか十三点

次（の）作品を寄贈いただきました。ここに厚く御礼申し上げます。

寄贈

〔洋画〕

安藤昭子氏より

安藤信哉作

「花束」
（油彩一九七）ほか二点

保管換

〔洋画〕

堀江正章作

「耕地整理図」
（油彩一九二）

椿貞雄作

「犬吠埼」
（油彩一九四）

鱈利彦作

「黄衣」
（油彩）

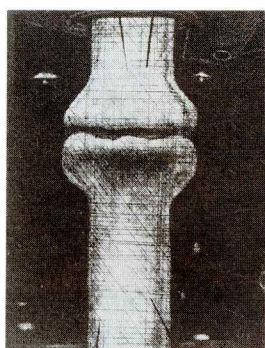


ルノワール 「少女像」

美の扉

銅版画への旅立ち

深沢 幸雄



骨疾日 1955

「朝日新聞」の蛇川宏倫さんが「二一世紀版画」に書いて下さった。「油彩画家を志しながらも、東京美術学校彫金科へ入学した深沢が戦時に受けた空襲の傷から歩行困難になったとき、ふたたび銅版へ向かっていったのも人生の不思議さであると思う。この幸せな生活をおくる美術教師を襲った不幸はたして不幸だったのか。銅版に立ち向うことで深沢はその不幸をはねとばしてしまっただろう」と。流石に僕が一字を加えることもかなわぬ見事な版画への旅立ちの描写と思うが、全く六年の長きにわたって右脚をコルセットで固め、歩行難儀

しながらの銅版画技法の探求、えらいことだったと思いい出し、胸が痛くなる。出発は一九五五年ごろ、日本で始めて銅版画の印刷機が作り出された時期に当たっていた。

歩むこともかなわず、習うこともかなわぬ状況、数ページのパンフレットが頼りの思考錯誤、しばしば涙も滲んだが、然しそれが多少なりとも異色といわれる僕の版画誕生の温床であったと思うと、人生暗夜ばかりではなく、時に予想外の灯りがともることもあるのだと回顧する。孤独な独学はツライけれどそこから独自の花が開く例はしばしば耳にすることだが。

蛇川さんは続けて書く、「ここにはたしかに長谷川潔や浜口陽三、ら西欧志向の銅版画の流れとはちがった日本の戦後銅版画の生みの苦渋のような叫びがある」と。

今回、千葉県立美術

館に新しく収蔵して頂いた白黒銅版画十三点はこの初期の作品群で、密室で一人、ひたすら覗きこんだ己れの精神、己れの魂、閉じた暗いまぶたの裏に明滅した心象の風景ということになるのだろうが、この時期にはタンテの神曲、地獄篇に材をとった連作も入っている。僕自信も地獄をのぞいた時期にいたのかも知れない。

病む前の僕はユトリロや佐伯祐三が好きだったので、病まなければ詩情の風景画家などになっていたかも知れぬから、僕をして深層心理の凝視者に変えさせた右膝の傷は、正しくわが人生の分岐点になった訳である。

やがて膝も癒え、歩けるようになった時メキシコ外務省の要請で僕はメキシコで銅版画の技法を教えることになる。そしてここで古代文明、マヤとアステカに出逢うわけだが、それは壮絶な生の叫喚、強烈な原色の世界で、その鮮烈な魅惑は僕を真正面からうちめし異様な世界へひきずりこんだ。ここから第二期といわれる時代に移ったのである。(日本版画協会理事長)

情報資料室だより

一 寄贈図書御紹介

●本県船橋市在住の美術評論家で、平成3年度第45回毎日出版文化賞受賞の「明治の彫塑」をはじめとする多くの著書で知られる中村傳三郎氏より、昭和60年度、62年度に続き、図書77冊、図録48冊、美術雑誌163冊、その他、所蔵品目録・リーフレット等あわせて835冊にのぼる図書関係資料を頂きました。

これらの資料は、彫塑史を中心とした近代美術を長く研究してこられた氏の蒐集だけあって、現在では入手できない個人の彫刻家の作品集をはじめとする現代美術家の作品集や、やはり入手しにくい画廊やデパートの展覧会図録(特に彫刻関係を中心としたもの)等、非常に貴重な資料が多く、これらの資料の受入れによって、今まで他の分野に比べて蔵書量の少なかった彫刻の分野を非常に充実したものにすることができました。彫刻や現代美術を研究される方は、是非御利用下さい。

頂いた主な資料は次の通りです。

□作品集

「百翁 平柳田中作品集」「鉄砲虫の一生 九十六翁平柳田中」「本郷 新」「佐藤忠良作品集」「水島弘一彫刻作品集」「彫刻 佐藤忠良(一九九一・九二)」「瀬戸團治」「NEDA RUDO ROSSO」「蟹のよこばい福沢一郎画集」「柴田米三画集」「ひまわりヴァン・ゴッホに捧げる」「佐々木豊画集」「難波田史男画集」ほか

□図録

「富永直樹彫刻五十年展」「イサム・ノグチ彫刻展」「佐藤助雄彫刻展」「山県寿夫彫刻展」「高田博厚彫刻展」「鷹尾俊一彫刻展」「山本豊一作品集」「近代日本の木彫系譜展」「ゴンザレス展」「ザッキンとブラックス展」「20世紀彫刻の巨匠たち展」「現代イタリア彫刻の11人」ほか

●千葉県在住の高橋貞子さんより、「書学体系」第一・五帙・研究篇の全67冊の寄贈を受けました。

多数の資料を提供していただいたお二人の方に厚く御礼申し上げます。

ごあんない 実技講座 (6月～9月)

美術館実技講座

●版画講座

期日 6月11・12・13・14・17・18・19・20・21・23・24・25日

講師 増田陽一氏 (12日間)
定員 20名 締切 5月28日
内容 銅版画

●陶芸講座1

期日 7月1・2・3・4・5・14・21・22・30日 (9日間)

講師 横山光ノ介氏
定員 30名 締切 6月17日
内容 茶碗、花器など

●洋画講座1 (油彩)

期日 7月2・3・4・5・7・8・9・10・11・12日 (10日間)

講師 松沢茂雄氏
定員 30名 締切 6月18日
内容 人物・静物など

●洋画講座2 (油彩・水彩)

期日 7月23・24・25・30・31日

講師 戸田健夫氏 (12日間)
定員 30名 締切 7月9日
内容 人物・静物など

●彫刻講座

期日 8月4・5・6・7・8・9・11・12・18・19・20・21日

講師 渋谷三朗氏 (12日間)
定員 15名 締切 7月21日
内容 木彫

●陶芸講座2

期日 9月1・2・3・4・5・15・24・25・30日 (9日間)

講師 神谷紀雄氏

友の会実技講座

◎洋画入門講座2 (油彩・水彩)

期日 6月6・11・13・18・20・21日 (6日間)

講師 熊谷文利氏
定員 30名 締切 5月23日
内容 人物・静物など

◎洋画入門講座3 (油彩)

期日 6月23・24・25・26・27・28日 (6日間)

講師 関和称氏
定員 30名 締切 6月9日
内容 人物・静物など

◎洋画入門講座4 (油彩・水彩)

期日 8月18・19・20・21・22・23日 (6日間)

講師 戸田健夫氏
定員 30名 締切 8月4日
内容 人物・静物など

◎洋画入門講座5 (油彩)

期日 9月8・9・10・11・12・13日 (6日間)

講師 小林数氏
定員 30名 締切 8月25日
内容 人物・静物など

◎デッサン入門講座1

期日 9月22・23・24・25日 (4日間)

講師 根岸茂行氏
定員 30名 締切 9月8日
内容 鉛筆淡彩

時間 美術館実技講座Ⅱ 12時

30分から4時30分まで
友の会実技講座Ⅱ 10時から4時まで

○日程・内容は変更する場合
があります。また、応募者多
数の場合には抽選により決定
します。

詳細は美術館普及課までお
問い合わせください。

《申込方法》

往復はがきに、希望講座名、
氏名、住所、電話番号を一講
座につき一名を明記のうえ、
美術館講座は、美術館普及課、
友の会講座は、美術館友の会
事務局まで。

職員異動

平成三年度末人事異動によ
り、次の職員が替りました。

◆退職者

鈴木喜久夫 (研究員)

◆転出者

高浦 英一 (主査↓県立鶴舞
商業高校事務長)

◆転入者

所 甚一 (県立大宮高校校
務長↓庶務課長)
津田 昇 (船橋市立大穴中
教諭↓研究員)
高橋 正夫 (千葉市立高浜中
教諭↓研究員)
矢野 綾子 (船橋市立二宮中
教諭↓技師)
三浦 拓郎 (県立船橋北高教
諭↓技師)

小野 禮子 (普及課長↓県立
中央図書館主査)
神尾 吉夫 (研究員↓千葉市
立大宮小教頭)
田坂 浩 (研究員↓県文化
財センター文化
財主事)

＜交通案内＞

- J R 総武線「千葉駅」より「千葉ポートタワー行」
バス15分「美術館・郵便局前」下車徒歩1分
- J R 京葉線「千葉みなと」駅下車徒歩8分

